

社団法人千葉青年会議所

2009年度 第50代理事長 山谷 恒樹

## 基本理念

情熱と気概を胸に抱き

JC 活動に勇気と誇りを持った行動が未来のちばを創る！

## スローガン

み らい そう せい  
未 来 創 生

## 基本方針

- 1．価値ある青年会議所運動の実践
- 2．会員拡大の推進
- 3．地域のリーダーとしての資質の向上
- 4．地域とのネットワークの構築
- 5．道徳心溢れる社会の構築
- 6．未来に向かう青年会議所運動の発信

# 所 信

## はじめに

「新日本の再建は我々青年の責務である」と青年会議所運動が日本各地で展開され、個人の「修練」・社会への「奉仕」・世界との「友情」を三信条とし、千葉の未来を担うべく「明るい豊かな社会づくり」を目指し創立された社団法人千葉青年会議所は本年度、創立 50 周年を迎えます。その間、社会情勢や経済、環境の状況によりその活動内容を時代に応じ変化させつつ、地域の発展につながる公益事業を展開し、社会からの信頼を得て、歴史と伝統を築いてまいりました。

50 年という長い歴史を経て現代社会は時代と共に変化し、技術革新により大変便利な世の中となりました。しかし、年金問題や格差社会による政治不信、企業の不祥事や食品偽装は後を絶たず、経営者のモラルの低下が指摘され、刹那主義、拝金主義が蔓延しています。我々が子供の頃、両親や祖父母、学校の先生から教わった道德心は何処へ行ってしまったのでしょうか。利便性、効率化と引き換えに、人としての「心」を置き去りにしてきたのではないのでしょうか。

人は、ひとりでは生きていけません。だからこそ思いやりを持って支え合いながら生きているのではないのでしょうか。その事を全ての人々が認識し、「心」でつながる思いやりのある社会を構築することが不可欠であると考えます。

私たち JAYCEE は、未来を担う変革の能動者であり、明るい豊かな社会の創造のために率先して行動し続けなければなりません。

## 千葉青年会議所の存在価値

青年会議所は永年に渡る活動実績が証明しているように、ただのボランティア団体ではなく、地域社会の発展と豊かな社会づくりを目指し、地域の諸団体・行政やまちづくりのスターターであると考えます。地域に根ざし、地域の発展を目指す団体としてリーダーシップを発揮し、旗振り役となり、時には影となって市民や行政に提案をしていかなければなりません。

また、公益法人制度改革の流れを受け、時代に沿った形に組織を進化させ、今まで以上に地域の為、社会の為、なお一層邁進していくべきと考えます。

そしてその活動の中で青年会議所会員一人ひとりがお互いに切磋琢磨し、人格を磨きあげていながら友情を育み、固い絆の仲間が自然に増えていくのではないかと考えます。「修練」・「奉仕」・「友情」の JC 三信条とはそれぞれが独立したものではなく、そのすべてが溶け合い、そして調和してこそ明るい豊かな社会創りの能動者を造り上げるのだと確信します。

## 魅力ある組織の育成

地域愛・郷土愛が社会で注目される中、小さくは家族愛、大きくは自国愛、そして地球愛まで、我々が属する社会を愛する心はとても大事であると思います。自分たちの組織を愛し、故に誇りが生まれ、その誇りが自らを律する法となり、他者からの尊敬と信頼を得る事が出来るのだと確信します。まずは青年会議所会員として、自らが所属する団体、千葉青年会議所と言う組織を愛するべきではないのでしょうか。そして我々自身とその活動内容に誇りを持ち、高い志を掲げ、千葉のまちを良くしたいという確たる想いを実行してゆかねばなりません。理想を語るのは大事です。しかしそれを実行する事こそ最も重要かつ必要な事だと考えます。理想を実行できる組織こそが魅力のある組織なのです。

## 会員拡大の促進

40歳で卒業を迎えねばならない我々青年会議所のしくみは新しい風をいつでも受け続ける風車のようであります。ゆえに会員拡大、新入会員を増やす事は永遠の課題であり、各地の同志が頭を悩ます問題でもとも言えます。しかし、政令指定都市を拠点にしたキャピタルJCとして、まだまだ我々のまちには会員資格を有する人材が多数埋もれているに違いありません。われわれの周りには、まだ多くの仲間がいます。そのためにも必要な事は、もっと外部に我々の活動を広く開示し、賛同者を募ることです。

青年会議所は広報が弱いと言われ続けております。50周年という機会に広く我々の活動を理解していただき、共感を得るためにもメディアやインターネットを有効に活用し情報を外部に発信し続ける事が肝要です。そしてその情報は決して一方通行にならないよう、情報の更新と地域の反応に対する対応に力を入れ、双方向な関係を地域と築いていくべきと考えます。そして、最も大事なものは人の力だと考えます。口コミや人脈を通じての紹介は泥臭いようですが、我々の活動に責任と誇りを持ち、情熱を伝える事こそが最良の方法であると確信し、メディアによる広報と人と人との絆からなる声掛けと、双方のアプローチを徹底すべきなのです。

## 地域のリーダーとしての成長

青年会議所は地域のリーダーを育てる学び舎です。青年経済人として企業のリーダーとして、日々、自分自身のスキルを上げ、心を磨いていくことが地域を想う原動力になると考えます。企業の存続・発展なくしては地域の発展は成し得ません。混沌とした時代に青年経済人・企業のリーダーとして経済・経営感覚を身に付け世界情勢にも目を配り、どんな時代の変化にも対応できる地域のリーダーに成長しなくてはなりません。JCしかなかった時代からJCもある時代と言われる現代で、青年経済人として厳しい時代を言い訳にすることなく、厳しい時代だからこそ仲間と共に「個を磨き」地域のリーダーとして誇りを持って行政、市民を巻き込んだ運動を展開しなければなりません。

## 地域・市民との絆

我々が社会的課題を見出し、対策に取り組むには、多くの団体や市民の共感や共鳴が必要です。共感・共鳴を頂き、より多くの人々を巻き込み、共に活動していく事こそが青年会議所が「運動体」であると言われる所以ではないでしょうか。

「成長したい」「誰かの為になりたい」「何かの役に立ちたい」という想いは我々の活動精神の源であり、もっと広く多くの人に伝えていかなければなりません。地域を明るく豊かな社会に変えようという意思と指導力が地域の未来を明るく豊かに変える力となります。そして我々が新しい発想を生み、大きな運動を巻き起こす事で可能性を広げる事にも繋がります。青年会議所運動を多くの人へ分かり易く伝え、理解していただき、社会的役割の大きさを訴え共に協力していただく事が必要であると考えます。また、我々自らが青年会議所の存在意義、社会的役割に対する理解を深め、そして多くの協力者と共に今まで以上に地域のためにJC運動を広げていかなければならないのです。

## 郷土愛の醸成

青年会議所運動の目的は、明るい豊かな社会を築くことです。この目的を実現するためには、地域を理解し、愛する心、誇りを持った真の人をいかに育むかを考えなければなりません。郷土愛や郷土に対する誇りを持たずして、国を愛する気持ちや日本人の心は育めないと考えます。まずは我々が率先して郷土を愛する人となり、ひとづくり運動やまちづくり運動を通じて、この地域を理解し、愛する心、誇りを持つ真の人を育み、仲間をふやし、私たちの住むこの地域を、豊かで情緒と人間味溢れるまちとなるように運動をしていかなければなりません。そして更なる地域の未来への創造に関わりを持ち、地域の持つ個性や魅力を再認識し活かしながら、より魅力的な新しいまちづくりに我々の思いのみならず、この地域の人たちの未来に寄せる考えや夢に積極的に耳を傾け、共に創り出す運動を起こしていかなければなりません。

## 道徳教育による良識ある精神の再構築

教育改革が叫ばれている昨今、青年会議所として改めて道徳教育に力を入れなければならないと考えます。

私たち日本人は古来より徳を積むことを重んじ、礼儀作法を先祖代々より受け継いできました。しかし、戦後の経済至上主義の中、核家族化が進み、道徳心を伝える余裕と機会を失った結果、個人主義や刹那主義の若者が増え、またその若者が次の世代に本来あるべき「道」を教えることが出来ていないのが現実です。

武士道・華道・茶道などを始め、道徳や生き方のお手本になるものは古来よりたくさん存在します。それを我々先に生まれた者たちが、子供たちに教える事が出来なければならないと思います。我々が尊敬に値するような「師」となり、そして「親」となり、将来のこの地域を担う子供たちに人生とは何か、生き方とは何かを教えていく活動をするべきではないでしょうか。

戦後、日本人の道徳心を十分に教授されなかった我々親世代は、われわれが理解していないから子供に伝えられないという悪循環にならないよう、我々が今の子供たちにしっかりと生き方や精神を教えなければなりません。

自分たちの子供だからこそ、地域の子供だからこそ、間違った個人主義や放任主義では、親として、或いは地域の大人としての責務が果たされません。子供たちに生き方を教えること、そして方向性を示すことが必要です。しかしながら、自分自身に迷っている大人がいる。だからこそもう一度、親そのものの生き方を問いかけることが必要です。それによって、家族を愛し、仲間や他者を敬い、地域を大切に、国を重んじる精神が創られるのです。

## 創立 50 周年を迎える千葉青年会議所

1960年に創立し本年度50年という節目の年を迎える社団法人千葉青年会議所は、英知と勇気溢れる先輩方の努力と地域の多くの人々のご支援、ご協力を一身に受けながら活動を続けて参りました。これはひとえに社団法人千葉青年会議所という組織が地域社会に必要とされていた証と言えるでしょう。私たちは、この素晴らしい50年の歴史を築き上げてこられた特別会員の諸先輩方、共に千葉のまちのために活動されてきた地域の皆様方に心からの感謝の念を抱くと共に、長い伝統と積み重ねられた歴史を振り返り、創始の精神に立ち還り今後さらなる飛躍を遂げねばならないと考えます。また次なる50年に向け更なる発展を遂げ、地域社会に必要とされる団体としてあり続けるために私たちが何をすべきなのかを徹底的に検証し討議して、進化した青年会議所運動を発信し、地域のために行動していかなければならないのです。

## 結びに...JCとしてのプライド

「あなたに会えて本当に良かった。」と心の底から言った事はありますか。心の底から言われた事はありますか。

我々が日々切磋琢磨し、仕事の合間に研修を受け、休みを削って事業を行うのは夢と理想がそこにあるからだと思います。まずは家族に伝えてください。我々は地域の為に、日本の未来の為に素晴らしい活動をしているのだと。友人に伝えてください。我々の行動が引いては世界を動かすのだと。我々が我々の所属する団体を誇りに思わなくて誰が誇りに思ってくれるのでしょうか。プライドがあるから汗をかけないのではなく、プライドがあるからこそ汗をかけるのです。プライドがあるから頭を下げないのではなく、プライドがあるからこそ、人の為にまちの為に頭を下げ、人の為に泥にまみれる事が出来るのです。

今こそ、我々青年会議所の会員一人ひとりが「この団体で活動が出来て本当に良かった。」と思えるように、プライドを持って「この団体に所属しているのだ。」と胸を張れるようにしていかなければならないのではないのでしょうか。

我々は「社団法人千葉青年会議所の会員として、地域の為に活動している。」と胸を張って言いましょう。堂々と未来を語りましょう。そしてその言葉に責任を持ち、覚悟を持って明るい豊かな社会創りに邁進して行こうではありませんか。

そのための「英知」と「勇気」と「情熱」なのですから。